

平成 30 年度 第 3 回 C O C 実施本部会議 議事録

平成 30 年 6 月 13 日 (水)

18 : 00 ~ 18 : 30

場所 : 本部大会議室

出席者 : 清水学長、齋藤教育開発センター長、橋本学生部長、大島研究開発推進センター長、木村局長、小津企画部主幹 (企画部長 森代理)、山村学生支援部長、中井教務担当課長

会議開催にあたり、森企画部長校務欠席のため、小津企画部主幹を代理出席する旨が諮られ、承認された。

【議 題】

1. 平成 3 0 年度プロジェクト研究Ⅱ選択者の研究テーマについて (学科提出分 仮集計)

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より配付資料に基づき説明がなされた。
プロジェクト研究Ⅱは平成 29 年度から開講し、学生による地域課題解決研究として『伊勢志摩定住自立圏共生学』等の C O C 事業で開発した教育プログラムでの学修成果を踏まえた地域資源や課題解決を対象とする研究である。昨年度は 14 名が履修。

審議の結果、異議なく了解された。

2. 『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラムの行政チャンネルを利用した 番組制作、配信について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長が説明がなされた。
今年度は 6 本を制作予定しており、番組制作費として 1 本 75,000 円の予算立てをしている。
まず、春学期に 3 本を制作。『伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ』プログラムを通じた大学と圏域自治体との番組制作体制で、①鳥羽市 離島 : 板井先生、②明和町 : 千田先生、③志摩市 : 近藤先生、が担当する。

昨年度、伊勢市と玉城町が制作・配信をしており、3 市 5 町を目途に制作する。本来は J-MOOC を計画していたが予算措置がかなわず、圏域自治体の行政チャンネルで放送した。29 年度末外部評価委員会にて視聴者数についてご指摘を受けて、youtube にアップロードした。

制作会社については、大学生テレビ局へ依頼を試みたが、オファーが多くスタッフの対応が困難であるとの回答のため、4 教ミュージカルも制作している制作会社に依頼している。

審議の結果、異議なく了解された。

3. 平成30年度CLL活動について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より配付資料に基づき説明がなされた。

①新規

- ・「TMKミライデザインプロジェクト（玉城町下外城田明るい未来推進PJ）」

実施主体：玉城町総合戦略課 担当教員：池山先生

活動場所である玉城町をより住みやすい地域にするため、現状把握、課題分析、課題解決を住民の方と検討していく。

- ・「観光PR動画制作と海外への発信PJ」

実施主体：伊勢市観光誘客課 担当教員：岡野裕行先生

動画クリエイターの指導により、スマートフォンで伊勢市の観光資源を撮影、魅力を海外へ発信する。

②継続（活動名、実施内容変更）

- ・「あばばい〜伊勢志摩国立公園 学生部会〜」

実施主体：三重県農林水産部みどり共生推進課 担当教員：板井先生

世界水準のナショナルパークを目指す「伊勢志摩国立公園」において、SNSを活用し、地域の若者目線による取組を行い、国立公園の認知度向上を図る。

- ・「伊勢シーパラダイス体験アクティビティ開発PJ」

実施主体：（株）伊勢夫婦岩パラダイス 担当教員：池山先生

シーパラダイスと、付随する施設および周辺において実施するアクティビティを企画・実施する。

③参加学生（学校行事参加者）追加

④その他

- ・オープンキャンパス

6月10日（日）に、CLL活動のパネル展示を6号館ピロティにて行った。

今回気づいた点として、6号館ピロティは、雨天および曇天はさらに暗く、ダウンライトを点灯するよう管財担当と事前に打ち合わせしておくこと。

今後の予定として、7月14日（土）、15日（日）は模擬講義（担当：板井先生、池山先生）、8月9日（木）は課題発見・解決型人材入試対策講座（板井先生）を予定している。10月27日（土）は倉陵祭と同時に開催する。

審議の結果、異議なく了解された。

4. 平成30年度プロジェクト研究等について（新規／継続）

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より配付資料に基づき説明がなされた。研究開発推進センターと協働し、今年度6件以上を目標としているが、現時点で4件である。今後、受託研究を使って目標を到達したい。

審議の結果、異議なく了解された。

5. その他

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長が説明がなされた。

①第4回本事業取組内容公表シンポジウム

平成30年9月9日（日） @皇學館大学 621教室（6号館2階）

COC事業最終年度を迎え、実質4年間をまとめとして振り返り、教育改革の成果を中心に開きたいと考えている。最終的なまとめとしては、3月に開催する「CLL活動報告会」で総括を行う。

②地域活動（三重県戦略企画部企画課）

- ・活動3年目！若者がたのしむまちづくり～かめやま若者未来会議～
- ・初瀬（はせ）街道の賑わいを甦らせよう！～「初瀬街道まつり」の活性化でまちづくり～

初瀬街道の活動に、1名学生の申し込みがあった。三重県へ報告済。

審議の結果、異議なく了解された。

【報 告】

1. 平成30年度自己点検・評価および外部評価委員会（5月）について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より報告がなされた。

5月26日に開催、外部評価委員3名へ議事録の修正等確認中であり、整い次第、改めてご報告申し上げます。

2. 文部科学省統一指標フォローアップアンケート結果について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より配付資料に基づき報告がなされた。

[学部学生アンケート]

Q1. 皇學館大学が「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っているか。知っている65%

Q 2. 皇學館大学が「地域のための大学」として実施する授業科目等を受講したことがあるか。受講したことがある 46%

※該当授業科目に必修科目があるため本来 100%でなければならない。

Q 1 1. 今後、地域に関する活動に参加してみたいか。わからない 49%と多いため、今後増やしていきたい。

[教員アンケート]

Q 1. 皇學館大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っているか。知っている 100%

[自治体の代表者アンケート]

Q 1. 皇學館大学の取組は、副申した事業計画どおりに進捗していると思うか。思う 100%
思う理由として、

「きめ細かな活動と取組姿勢により、概ね事業計画どおりに進捗している」、「事業計画と実施状況において確認」、「定期的に活動報告や進捗報告もいただいております、その様に感じている」と意見をいただいている。

(その他資料として)

・平成 29 年度 CLL 活動自己評価結果、アンケート結果

あくまで自己評価によるものだが、事前評価と事後評価を比較すると、全評価（A. 地方創生マインドの養成／B. 問題発見力／C. 問題構成力／D. 情報収集力・問題解析力／E. 評価力／F. コミュニケーション／G. 実行力・解決力）低かったものが、外側へと広がりを見せ円が均等となった。

参加した学生の中には、複数の CLL 活動に参加しており、Q 2. 参加した CLL 活動についてどこで知ったか？の問いには、授業および友人知人から知った者が多く、案内チラシや説明会は少ない。

また、Q 4. 今回の活動に参加してよかったと思うか。そう思う、ややそう思うを合わせると 99%であり、Q 5. 地域の活性化に向けて地元の人と共に活動できたと思うか。そう思う、ややそう思うを合わせると 89%という結果であり、CLL 活動学生ほぼ全員が良かったと感じている。

学生たちも地域に対してより関心が高まったと分析できる。

9 月に行うシンポジウムにおいて、教育改革のひとつとして活用したい。

平成 30 年度 第 4 回 C O C 実施本部会議は、平成 30 年 7 月 11 日(水)に本部大会議室で開催されることが確認された。